

## 『国際政治』193号「歴史のなかの国際平和機構」（仮題）

『国際政治』193号「歴史のなかの国際平和機構」では、国際組織・国際機構と総称される制度を考察の対象とし、その歴史的検討を目的とする。これまで外交史・国際政治史といった分野が学問的に確立されているように、国家アクターを中心とした研究は多く記されてきた。しかしながら、19世紀終わりころから顕在化し現在では国際関係の多くの局面で存在意義を示している国際機構についての歴史的記述は、近年増えてきているとはいえ、未だそれほど蓄積が多いとはいえない。本特集号では、国際機構を主たる対象とし、その歴史的考察を行うことで、国際関係の史的発展は国家を中心とする単線的なものではなく、重層的な様相を帯びてきたことを明らかにしたい。

対象とする「国際平和機構」は国際連盟や国際連合といった普遍的組織にとどまらずにその関連機関をも含むものとする。したがって、このタイトルにある「国際平和機構」における「平和」の概念は、狭義の安全保障上の平和にとどまらずに、開発・人権、また場合によっては経済秩序をも対象とする広義のものとする。主として、政府間国際組織（IGO）を本特集号では対象とするが、国際機構を広くとらえる場合には非政府間組織（INGO）を含みうるので、本特集号では、その内容が国際関係の史的文脈に位置づけが明確な場合には、検討の対象としたい。同様に地域的国際機構、具体的にはヨーロッパ連合（EU）やアセアン（ASEAN）の史的検討をも含みうるものとする。

また分析や叙述の基軸としては、国際機構にかかわる一次史料を分析したオーソドックスな「国際機構史」もあるであろうし、国際機構を叙述の中心に据えたいうえで一定の国家アクターとの絡みを論じることも可能である。また国際機構法という学問分野が存在するように法的視角からの分析も可能であり、たとえば、平和維持活動をめぐる法的議論を対象とするような史的アプローチもありうる。さらには、その時代に国際機構がどのように理論的・学問的にとらえられてきたのかという思想的アプローチも考えられるであろう。また、国際機構に関わった人物を射程の中心に据えるような研究も可能だと思われる。

特集号の全体的なねらいは、いろいろな角度から「歴史のなかの国際平和機構」をとらえることで、国際関係の史的理解が深めることにあるので、多様で想像力に富んだ視点からの論稿を期待したい。

論文の応募をご希望の会員は、論文の仮タイトルと要旨（600～800字程度）を下記の編集責任者の連絡先までお送りください（締切は2017年6月30日）。応募にあたってはご自宅とご勤務先・ご所属先の住所・電話／FAX番号、メールアドレスをお知らせください。検討のうえ、ご執筆願うことになった方には2017年7月31日までに編集責任者から連絡いたします。論文原稿の最終提出締め切りは2018年1月31日を予定しております。論文原稿の分量は註を含んで2万字以内です。査読のうえ最終的な掲載の可否を決定

いたします。本号の刊行は 2018 年 5 月 31 日を予定しています。

執筆要領の詳細は学会 ホームページでご確認 ください。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お問い合わせ・お申し込みは下記までお願いいたします。

《編集責任者》篠原初枝

《連絡先》〒169-0051

新宿区西早稲田 1 - 2 1 - 1 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

TEL 03-5286-3938

Fax 03-5272-4523

E-mail : hatsueshinohara★gmail.com (★を@に置き換えてください)